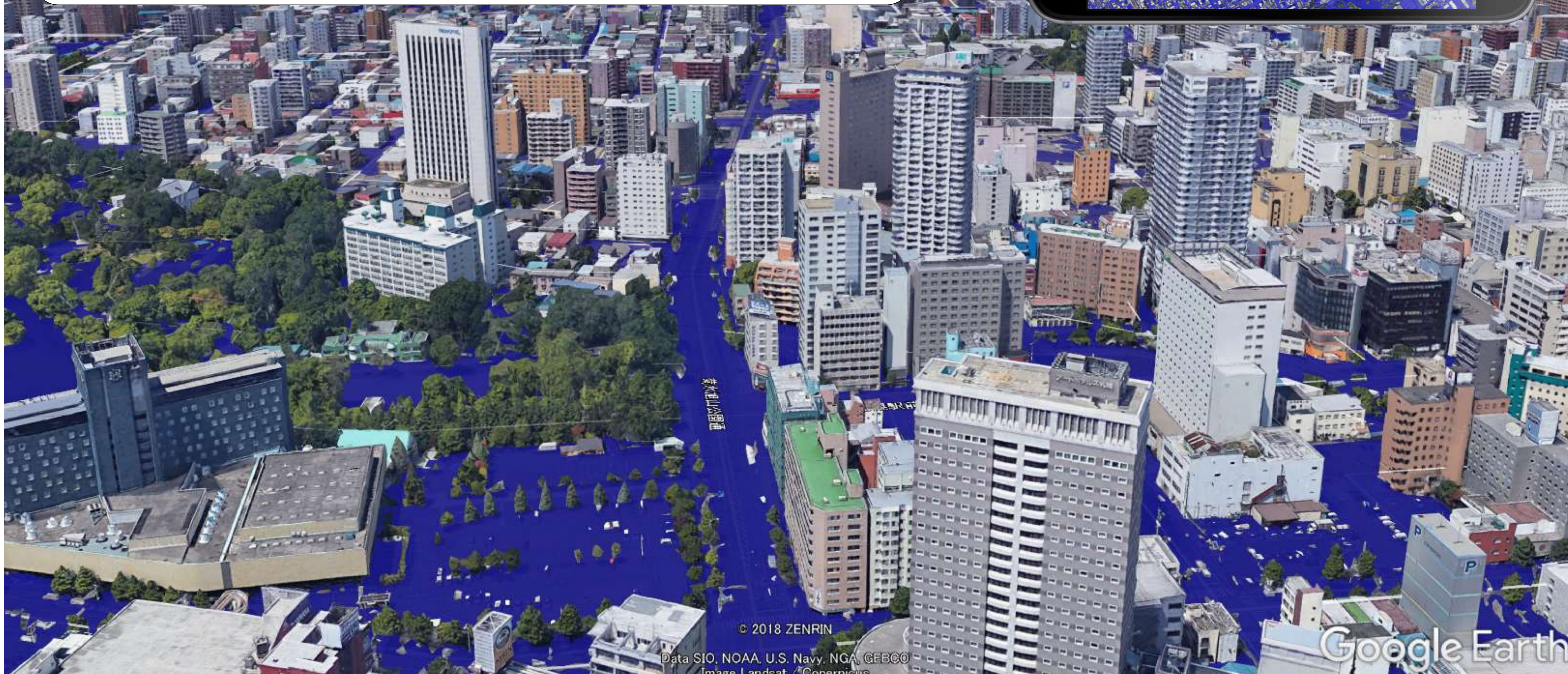
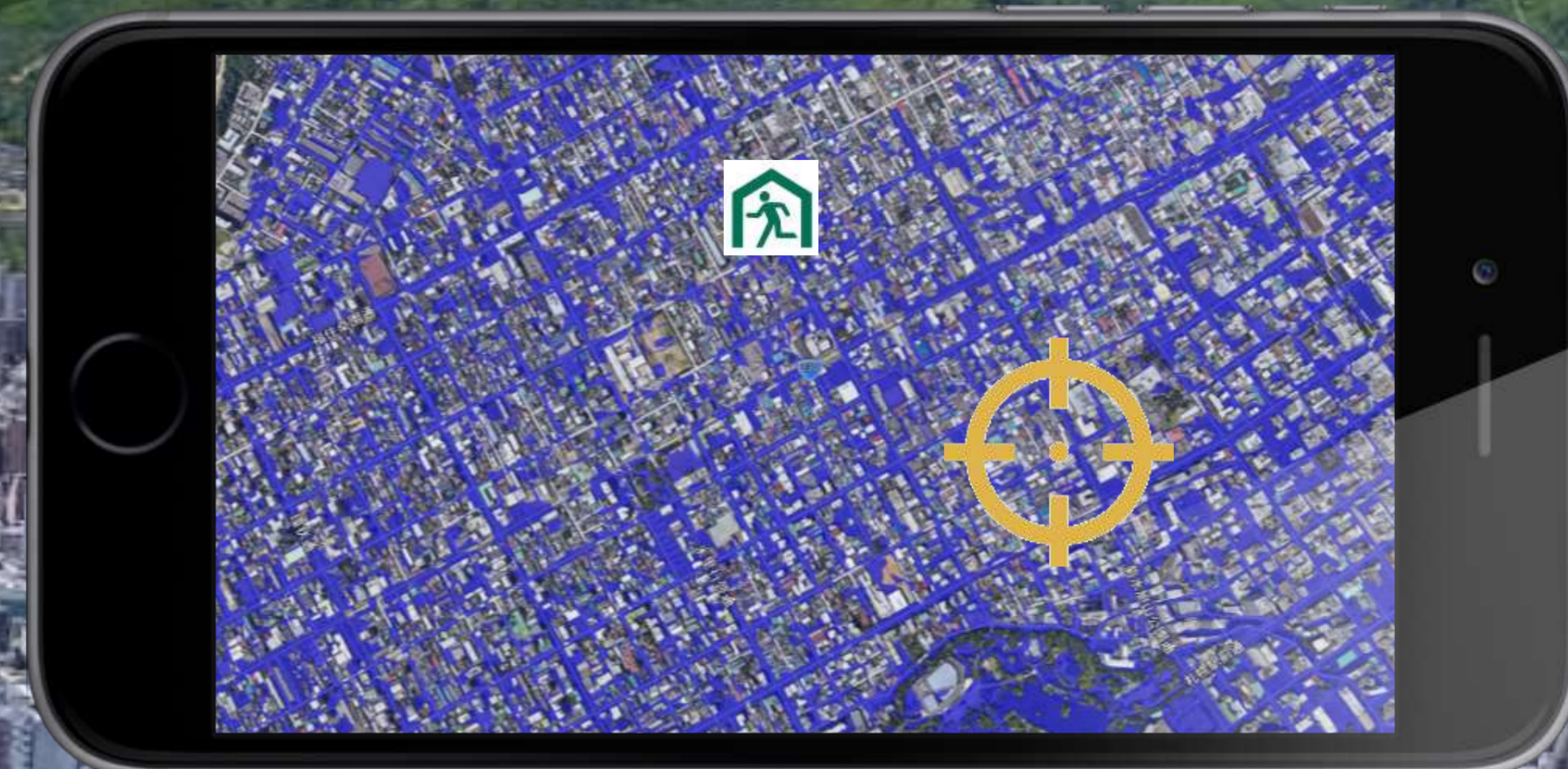


3D浸水ハザードマップ作成技術

研究背景

- 近年、「想定外」や「経験したことが無い」と呼ばれる水害が増加傾向にあります。しかし、住民避難をサポートする洪水ハザードマップの認知度は低い状況にあります。
- そこで、ハザードマップを住民目線のものへと変換するために、Google Earthを活用した「理解しやすく利用しやすいハザードマップ」を提案します。

スマホ + GPS + Google Earth



■ 従来のハザードマップの課題

スマホでハザードマップを見た場合・・・



- ✓ 土地勘がない人は自分のいる場所や避難所の位置が理解できない。
- ✓ 色と浸水深の関係が瞬時に分からない（凡例が小さい）。
- ✓ 外国人旅行者に日本語は理解困難。

■ 3D浸水ハザードマップの特徴

ストリートビューで直感的に分かる！



- ✓ 携帯GPS機能で自分の居場所が分かる！
- ✓ 浸水深を視覚的に周辺建物と比較して判断・実感できる！
- ✓ Google Earthを用いているため、地図を英語表記できる！

■ 3D浸水ハザードマップのメリット

- 視覚的に浸水深を表示し、直感的に理解しやすく・操作しやすいユニバーサルデザインとなっているため防災教育や外国人観光客への災害情報提供にも利用可能です。
- Google Earthを利用するため、予算規模の小さい自治体や発展途上国でも展開可能です。



3D浸水ハザードマップの表示例は、ホームページでも紹介しております。

